

実践 4：アノテーション・データから学習用データを作る

土井 伸洋



図1 「アノテーション」タブから「アノテーションZIPをダウンロード」をクリックすれば全アノテーション・データを取得できる

アノテーション作業が完了したら、アノテーション情報を使って学習用データ（ここではマスク画像）を生成していきます。アノテーション・データをそのまま学習に利用できる場合もありますが、学習時の手間を減らすためにも、あらかじめ成形された学習用データを作成してしまった方が多いことです。

今回は白線領域を塗りつぶすのではなく、白線をポリラインでマーキングする方法をとりました。ですので、後処理でポリラインの情報を使ってセグメンテーション・タスク向けの学習用データを生成します。

アノテーション・データの取得

多くのアノテーション・ツールでは、アノテーション結果をテキスト・ベースのファイル（JSON、XML、CSVなど）で出力できます。Annofabの場合はJSON形式で得られます。なお、前章図5のラベルの「種類」

で「塗りつぶし」を選んだ場合は、PNG形式の結果が得られます〔これは第4章図5(a)に対応〕。

● データの取得方法

プロジェクト・ページの「アノテーション」タブを開くと、これまでに入力したアノテーション一覧を確認できます（図1）。そして、右上の「アノテーションZIPをダウンロード」をクリックすると、全てのアノテーション・データがひとまとまりになったZIPファイルが得られます。

この中には、Annofabのタスクごとにフォルダ分けされたアノテーション・データが格納されています。アノテーション・データは、1画像ファイルに対して1JSONファイルという構成となっています（図2）。

● JSONファイルの中身

抜粋したものをリスト1に示します。アノテーショ